

様式第4号（第11項関係）

審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和4年度第2回西脇市まちづくり推進審議会
開催日時	令和4年8月29日（月）午後7時00分～9時00分
開催場所	西脇市役所 大会議室
出席委員の氏名 又は人数	平田富士男会長、藤原悟副会長、松山秀樹委員、井上浩代委員、藤井裕子委員、清水賢一委員、濱崎美千代委員、松本美千代委員、李貫一委員 計9名
欠席委員の氏名 又は人数	松尾憲子委員、藤井琢己委員、森川元良委員、野村直樹委員、藤原俊子委員 計5名
出席職員の職・氏名 又は人数	都市経営部長 渡辺和樹、まちづくり課主査 二若直也、まちづくり課職員 野村悟史、鳥田朱里 計4名
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	1名
議題又は協議事項	1 報告事項 (1) 西脇市市民提案型まちづくり事業の事業採択について (2) 西脇市地区まちづくり実践補助事業の事業採択について 2 西脇市市民提案型まちづくり事業を活用したまちづくり活動の活性化方策について
会議の記録（概要）	
発言者	発言内容等
	1 開会 2 会長あいさつ
部会長	3 報告事項 (1) 西脇市市民提案型まちづくり事業の事業採択について (2) 西脇市地区まちづくり実践補助事業の事業採択について 資料1「西脇市市民提案型まちづくり事業企画書の審査結果について」及び資料2「西脇市地区まちづくり実践補助事業の審査結果について」に基づき、西脇市まちづくり推進審議会審査部会長から説明

	<p>4 協議等</p> <p>西脇市市民提案型まちづくり事業を活用したまちづくり活動の活性化方策について</p>
事務局	<p>資料3及び資料4に基づき、西脇市市民提案型まちづくり事業の概要及び他市町の市民活動支援事業について事務局から説明</p>
会長	<p>また、これまでに当該補助制度を活用したまちづくり活動団体の活動状況について説明</p>
事務局	<p>市民のまちづくり活動を活性化させる呼び水として、この補助事業を運用しているが、更なる活性化のためにはどのような取組が必要であるか、率直な意見をいただくため、グループワークを実施する。</p>
会長	<p>事務局から、グループワークの進め方について説明。まちづくり活動者側又は補助金交付者側（納税者）の視点で協議するグループに分かれ、グループワークを実施</p>
	<p>まず、それぞれのグループの視点で、まちづくり活動団体の事業や活動状況に対する評価をしていただく。その評価に基づき、補助制度にどのような改善が必要であるか協議いただきたい。まちづくり活動者側のグループは、まちづくり活動がより円滑に進むこと、または活性化するためには、どのような制度改正や運用の改善が必要であるかを議論いただく。補助金交付者（納税者）側のグループには、まちづくり活動者に対する要望やまちづくり活動者の課題を解決させるためには、どのような制度改正が必要であるかを議論いただく。</p> <p>グループワークを実施</p>
会長	<p>それでは、各グループから発表をいただく。まちづくり活動者側のグループからお願いします。</p>
委員	<p>まずは評価についてであるが、大きく分けて6点あった。活動団体の会員確保が難しく、団体の維持が大変であるということ、当該補助制度の活用後の活動計画が不足していること、まちづくり活動に関する広報活動が不足していること、地域自治協議会をはじめとする他団体との連携が組織作りに重要である、当該補助制度の審査時に実施する活動内容のプレゼンテーションにより学びがあったということ、活動資金の獲得が難しいということである。</p> <p>次に、先程の評価に対比するような改善案を検討した。まずは、活動や補助制度の見える化を促進することである。広</p>

<p>会 長</p>	<p>報不足により、各団体の事業に継続性がないこと、それぞれの団体の活動状況が市民に浸透していない、また助成金の制度が、広く市民に知られていないこと、採択団体がどのように活動しているのかがわかりにくいいため、見える化を図らないといけない。次に、各団体や行政との連携を促進するコーディネーターのような存在があればいいのではないかと考える。また、団体に寄り添い支援していくような仕組みの構築が必要であると感じた。</p>
<p>副 会 長</p>	<p>ありがとうございます。次に補助金交付側のグループの発表をお願いします。</p> <p>評価について大きく5つにまとめた。1つ目に、マスコミ媒体への積極的な情報提供や活動団体自らによる情報発信など、広報活動の推進に取り組むべきであること。2つ目に、活動団体の収支の明確化を図り、市民にまちづくり活動を認めてもらう必要があること。3つ目に、会員の高齢化などにより、まちづくり活動が硬直化し、団体の輪が広がっていないように感じられること。4つ目に、積極的な活動ができるような組織作りをしないとけないということ。5つ目に、似たような目的の団体同士が交流し、協力しながら事業を進める必要があること。そのような交流の場は、市が主導して設置していく必要があるのではないかと思う。</p> <p>改善策としては、ひとりよがりの広報活動ではなく、広く市民に知られるような広報活動を行うことが必要であると感じた。また、現状の活動に満足して、活動がマンネリ化している団体に対し、賛助会員や若い世代の会員の獲得など活動団体の拡大や他団体との交流、うまく活動できている団体からの情報収集などを行うことで、団体の活性化につなげることも重要であると考え。併せて、活動団体の事務局体制の強化も必要である。そのためには、活動団体への継続的なサポートが必要で、中間支援の活用、研修会や活動の報告会が必要ではないか。</p>
<p>会 長</p>	<p>2つの視点に分かれ、議論いただいたが、どちらの視点の意見も同じような結果になった。今回の議論を「マインド (Mind) (熱意があるか) やメンバー (Member)」 (つまり「M」)、「バジェット (Budget) (財源・予算)」 (つまり「B」)、「スキル (Skill (技術))」 (つまり「S」) という、M・B・Sの観点から評価をまとめてみたい。</p> <p>M (マインド) については、熱意は高く、多様性があると</p>

	<p>いう評価が見受けられた。M（メンバー）については、会員の高齢化により、意識が硬直化しているところがあるという評価であった。B（バジェット）については、収支の透明化が必要であるという話はあったが、補助金額が少ないなどの意見は無かったように思う。意見が多かったのは、S（スキル）に関することであり、広報、活動の見える化、活動の継続性等について課題があるとの評価であった。</p> <p>これらの課題に対し、マインドは、制度を改善することで高められるものではないが、広報や活動の継続に関するスキルを高めることは可能である。経験の無い団体が、うまく広報することは難しいので、誰かのサポートが必要である。</p> <p>サポートの主体を誰が担うのかであるが、1つ目は中間支援組織を含む行政である。2つ目は同じく助成を受けている団体であり、これは仲間との交流ともいうこともできる。3つ目は過去に助成を受けた団体であり、これも先輩団体との交流ということができる。そうすることで、各団体が不足しているスキルを高め、また硬直している意識を少し機動的にできるのではないか。</p> <p>今日の議論のなかで、多かったのは交流やサポートに関することであり、そのような仕組みを今の制度のなかに入れるのか、又は制度とは別に実施するのかを事務局で検討し、その検討結果に基づき、次回の審議会で議論を続けたい。</p>
事務局	<p><b>6 今後の予定について</b></p> <p>まちづくり活動審査部会や第3回まちづくり推進審議会の開催日程について説明</p>
問合せ先	都市経営部まちづくり課